

# 世界に平和を・戦争の基地はいらない

羽村平和委員会発・横田基地ミニ情報 2016.4.5 No. 259 連絡先 FAX 042-555-1911



## パラシュート降下訓練中の誤降下について要請と原因報告

東富士演習場におけるパラシュート降下訓練中の誤降下について、横田基地に関する東京都と周辺市町連絡協議会は、横田基地に対して、次のとおり要請を行うとともに、防衛省に対しても、米軍に申し入れを行うよう要請したそうです。

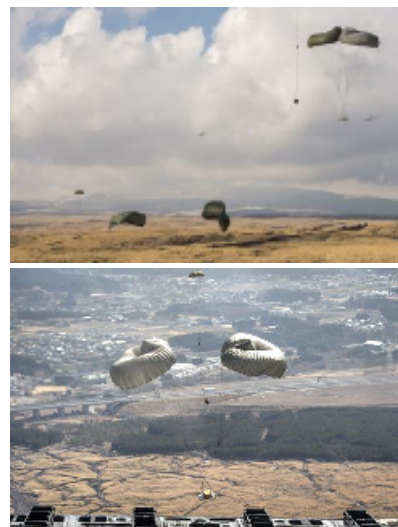
実施日時：3月23日（水）、要請先：横田基地第374空輸航空団、北関東防衛局、横田防衛事務所。要請方法：口頭要請。口頭要請内容：1 今回の場外への降下について、原因究明を行うこと。2 再発防止策を講ずるとともに、訓練の実施に当たっては、安全確保の更なる徹底を図ること。3 以上に関する情報を関係自治体に速やかに提供すること。

また、この要請に対し、在日米陸軍司令部から南関東防衛局を通じて、次のとおり情報提供があったそうです。【原因】・当該米兵が風を見誤った。・今回の訓練で新しいタイプのパラシュートを使用したため不慣れであった。【再発防止策】新しいパラシュートの使い方を含む訓練の手順についてブリーフィング（報告、指令）を全ジャンパーに対し行ったとのこと。

## 東富士演習場でのパラシュート物資投下

横田基地ミニ情報 No. 257 で、「3月3日の（米軍横田基地）HPでは、2月1日、横田基地でパラシュートの修理やパレットの準備をしたり、2月2日に富士演習場でパレットやパラシュートを回収する写真（右上）が掲載されています。」と書きましたが、今回の東富士演習場でのパラシュート降下訓練の準備だったのですね。

今回の事故で、東富士演習場の人員降下・物資投下についても事前通報があることが分かりました。しかし、2つのパラシュートで物資投下する右の写真の訓練については、事前通報がなかったようです。（2013年2月28日に撮影：米軍横田基地HP）



## 安倍首相、防衛大学卒業式で安保法施行語るも 任官辞退者1割超す

安倍晋三首相は3月21日、神奈川県横須賀市の防衛大学校の卒業式で訓示し、29日に施行予定の安全保障関連法について「安全を確保しながら適切に実施できるよう、あらゆる場面を想定して周到に準備しなければならない」と述べ、施行に万全を期すよう求めました。

陸・海・空自衛隊の幹部を養成するのが防衛大学ですが、2015年度の卒業生数は419人、任官辞退者は47人、11.2%と多数です。2014年度は5.3%、2013年度は2.3%、2012年度は1.7%、2011年度は1.1%ですから、今年の任官辞退者の多いことが分かります。

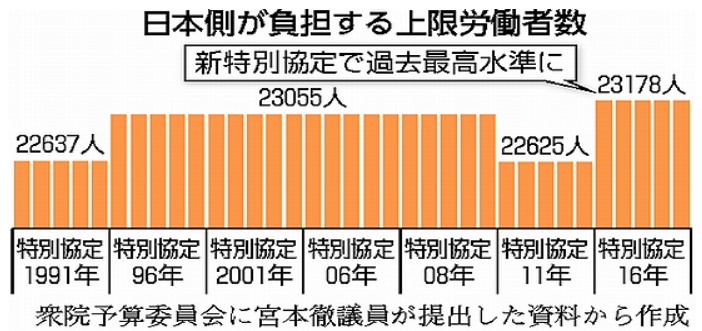
29日に安全保障関連法が施行され、同盟国を攻撃した敵に武力を行使することが可能となり、国連平和維持活動（PKO）で他国軍部隊を救助する駆けつけ警護や海外での邦人救出など自衛隊の任務が拡大します。自衛隊員が、海外で「人を殺し、殺される」かもしれないのです。

戦争を放棄した日本の憲法をまもろう！ 戦争法廃止を高く掲げていこう！

## 米軍「思いやり」予算 基地従業員20年ぶり増

(No. 259 裏面)

2016～20年度までの在日米軍への思いやり予算（在日米軍駐留経費）の支出根拠となる新しい特別協定（1月22日締結）は、20年ぶりに日本が給与負担する米軍基地従業員を増加させています。当初、財務省側は思いやり予算負担を「聖域視せず、減額を図るべき」などと主張していました。今回の特別協定で、日本が給与を負担する米軍基地従業員が過去最高の2万3178人に到しました。



「米軍基地はない方が良いが、日本人従業員はどうするの」という声を聞きます。日本人従業員の給与は、今、日本政府が負担しています。米軍基地をなくして、「思いやり予算」を廃止して、日本政府が負担していた労務費等を日本人従業員の再出発のために使えばいいのです。

## 2000年のオスプレイ墜落事故 操縦ミスの汚名をパイロット遺族が晴らす

(2016/03/13 FlyTeam ニュース) 【2000年4月8日にアメリカ・アリゾナ州で起きた海兵隊MV-22B オスプレイの墜落事故に関して、操縦ミスが主な原因とされていましたが、遺族らの調査によりマニュアルの不備が主な原因であることが明らかになり、ワーク国防副長官が遺族に謝罪しました。News & Observerが、2016年3月10日付で報じています。

墜落事故は編隊での夜間訓練中で、操縦士のジョン・ブロー中佐と副操縦士のブルックス・グルーバー少佐のほか、17名が搭乗していました。先行機のコンピューターが故障し、それに気を取られたのか編隊はアプローチ高度まで降下することができませんでした。先行機が急減速したので、後続していた事故機はヘリコプターのような急降下を行い、ローターが失速して地面に激突、横転して逆さまになってしまいました。19名全員が死亡しました。

事故から3カ月後の2000年7月に、海兵隊は事故原因について「操縦ミスが主な原因と思われる」とのプレスリリースを発表し、それが海兵隊の公式見解となってしまいました。

副操縦士グルーバー少佐の娘、事故当時は少女だったコニー・グルーバーは、父親の汚名を晴らすべく操縦士ブロー中佐未亡人のトリッシュ・ブローとウォルター・ジョーンズ下院議員に助けを求めました。ジョーンズ下院議員は、2014年に就任した元海兵隊員のワーク副長官に再調査を依頼し、パイロットのミスは主因ではなく危険領域を示さなかったマニュアルの不備、対気速度表示システムの不備が主因であったことが明らかになりました。

事故後、マニュアルは改訂されており、遺族と機体メーカーは和解に合意しました。ジョーンズ下院議員によると、当時のチェイニー国防長官はオスプレイの計画キャンセルを恐れ「語るができない死者をスケープゴートにした」と話しています。コニー・グルーバーは「父の名誉を回復できた。もはや何の疑問もない」と喜びを話しています。】

## ハワイ オスプレイ墜落死で 海兵隊員遺族 製造社を提訴 (No. 256 参考)

2015年5月にハワイで起きた米海兵隊のMV 22 オスプレイの墜落事故で死亡したマシュー・ディターマン上等兵の両親のマイク・ディターマン夫妻（アリゾナ州在住）が、ボーイング社など製造元を相手取り3月29日、ホノルル連邦地方裁判所に提訴したことが分かった、とホノルルのテレビ局ハワイ・ニュース・ナウが伝えました。砂ぼこりなどの環境条件に対する脆弱性を知りながら対策を怠ったなどと、過失を訴えています。